

母子保健領域における健康教育に関する研究

研究協力者：野崎貞彦¹⁾

協力研究者：川田智恵子²⁾、河内卓³⁾、鈴木和子⁴⁾、武田文¹⁾、土屋久幸⁵⁾

中西好子⁶⁾、根岸千代子⁷⁾、山口鶴子⁸⁾、渡辺宇多子⁹⁾

要約： 1. 母親学級の受講者が意識・態度・行動の変容を達成することが、精神的健康やQOLとどう関わっているか、という観点から母親学級を評価した。各学習内容に関して「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の3点の変容達成を評価させたところ、変容達成群では非達成群よりも明らかに抑うつ状態や気力の低下の状態が低く生活の充実感が高く、母親学級による変容達成は母親の精神的健康やQOLと関連することが示された。

2. 3つの評価視点のうち、「不安の解消」が母親の精神的健康やQOLと最も多く関連していたことから、不安の解消ができたかどうかという側面を評価することがポイントと思われた。

3. 母親学級の学習項目がいずれも同程度に受講者の精神的健康やQOLと関連しているのではなく、分娩や出産前後のこと、歯の衛生、育児に関する講義項目ならびに実習項目が特に関連が強かったことから、こうした領域での変容達成が重要と思われた。

見出し語： 母親学級、変容評価、評価視点、学習項目、精神的健康、QOL

I. 研究の目的

母親学級は、受講者の不安の解消、判断能力の獲得、行動の実践といったいわゆる変容の達成を目標とする健康教育である。一方、母子保健では、母親の育児不安や抑うつ予防など、精神的健康やQOLの維持向上の重要性が指摘されてきているが、この観点による母親学級の評価はあまり検討されていない。

本研究では、受講者の精神的健康やQOLの

側面から母親学級による変容達成を評価することを目的とする。すなわち、母親学級の受講者に、講義や実習の各学習項目ごとに「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の3点に関する自分の変容達成を評価させた。さらに、それらの変容達成と精神的健康や生活の充実感の関連を分析し、どのような評価視点や学習項目が重要であるかを検討した。

1) 日本大学医学部公衆衛生学教室 2) 東京大学医学部保健社会学教室 3) 埼玉県戸田蕨保健所
4) 大田区糎谷保健所 5) 埼玉県川口保健所 6) 新宿区牛込保健所 7) 練馬区光が丘保健相談所
8) 練馬区練馬保健所 9) 練馬区大泉学園保健相談所

II. 研究方法

1. 調査方法と調査項目

東京都区部の保健所・保健相談所5ヵ所および埼玉県南の市部に所在する保健センター2ヵ所において、1993年10月に実施された3～4ヵ月の乳児健診に訪れた母親に調査票を配付し、自宅に持ち帰り記入してもらった。回収方法は、東京都に関しては健診が2日間あるので2日目に持参してもらい、埼玉県は1日で終了するため返信用封筒で郵送してもらう方法をとった。実施数は674（東京都300、埼玉県374）、回収数は482（東京都271、埼玉県211）、回収率は71.5%（東京都90.0%、埼玉県56.4%）であった。

調査項目は、1）属性（年齢、最終学歴、職業、子供の数、世帯類型、住居形態、現住所での居住年数、実家までの所要時間）、2）母親学級の受講の有無、時期、場所、3）母親学級の各学習項目に関する変容評価、4）精神的健康（抑うつ状態、気力の低下）と生活の充実感とした。

このうち、3）母親学級の各学習項目に関する変容評価と4）精神的健康について、以下に述べる。

3）母親学級の各学習項目に関する変容評価は、講義項目として①妊娠中の生活と衛生、②栄養、③歯の衛生、④分娩の準備・経過、⑤産後の衛生、⑥沐浴、⑦育児について、実習項目として⑧分娩時の呼吸法・補助動作、⑨妊婦体操・運動について、の計9項目を設定し、それぞれ「不安を解消した」「困ったり迷ったりした時自分で判断できた」「実際に行動できた」

の3点に関して、「はい」「いいえ」で評価させた。

4）精神的健康のうち、抑うつ状態は、Zung自己評価式抑うつ尺度（SDS）によって測定した。これは、20項目の設問に対する4段階の応答を得点化（1～4点）し、その合計得点（20～80点）を抑うつ得点とするものである。気力の低下は、労研式疲労自覚症状調査表の「気力の低下」（いらいらする、気が散る、根気がなくなるなどの10項目）を用いて、各項目に対する応答数を全項目数で除した疲労訴え率によって測定した。

2. 母親学級の受講状況および分析方法

調査票を回収した482名における母親学級の受講状況は、「今回初めてでた」223名、「今回と昔もでた」24名、「昔でた」165名、「でてない」68名、「無回答」2名であった。「今回初めてでた」者の99.1%は第1子出産者で占められており、母親学級の受講はほとんどが、第1子の出産時であることがうかがえた。「でた」と答えた412名の受講場所の内訳は、「①病院」221名、「②保健所・保健相談所・保健センター」103名、「③①と②の両方」84名、「④その他」3名、「⑤無回答」1名であった。

分析にあたっては、受講場所が「④その他」「⑤無回答」の者を除き、病院あるいは保健所・保健相談所・保健センターの母親学級を受講した408名を対象とした。SPSS統計パッケージを用いて、単純集計から変容評価の状況を把握し、クロス集計と一元配置分散分析により変容達成群と非達成群の比較分析を行った。さらに、年齢・子供の人数・地域・受講時期・受

講場所・実家までの所要時間・変容評価を説明変数として、抑うつ状態・気力の低下・生活の充実感に関する共分散分析を行い、変容評価そのものが精神的健康やQOLに対してもつ単独規定力を検討した。

Ⅲ. 結果

1. 対象者の属性と変容評価の状況

対象者の8割が25～34歳で、子供の数は「1人」と「2人以上」がそれぞれ約半数ずつであ

る。約8割の者が核家族で、全員が専業主婦であった。

母親学級における9つの学習項目に関して、「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の3点から変容達成を評価させた結果を、表1に示す。実習の2項目は、変容達成率がいずれも60%台であり、講義項目における変容達成率に比べてやや低い。また、講義項目では、「歯の衛生」と「育児について」の項目において、変容達成率がやや低い傾向が、観察された。

表1 母親学級の各内容に関する変容評価

標本数=408

学級内容	評価項目	不安を解消した			困ったり迷ったりした時自分で判断できた			実際に行動した		
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
講義	妊娠中の生活と衛生	316 (77.5)	47 (11.5)	45 (11.0)	328 (80.4)	37 (9.1)	43 (10.5)	317 (77.7)	41 (10.0)	50 (12.3)
	栄養(鉄分など)	311 (76.2)	50 (12.3)	47 (11.5)	331 (81.1)	36 (8.8)	41 (10.0)	318 (77.9)	47 (11.5)	43 (10.5)
	歯の衛生	245 (60.0)	109 (26.7)	54 (13.2)	249 (61.0)	103 (25.2)	56 (13.7)	210 (51.5)	147 (36.0)	51 (12.5)
	分娩の準備・経過	302 (74.0)	64 (15.7)	42 (10.3)	308 (75.5)	52 (12.7)	48 (11.8)	317 (77.7)	40 (9.8)	51 (12.5)
	産後の衛生	308 (75.5)	51 (12.5)	49 (12.0)	312 (76.5)	48 (11.8)	48 (11.8)	311 (76.2)	48 (11.8)	49 (12.9)
	沐浴	296 (72.5)	69 (16.9)	43 (10.5)	320 (78.4)	43 (10.5)	45 (11.0)	332 (81.4)	41 (10.0)	35 (8.6)
	育児について	252 (64.8)	106 (26.0)	50 (12.3)	275 (67.4)	83 (20.3)	50 (12.3)	310 (76.0)	46 (11.3)	52 (12.7)
実習	分娩時の呼吸法・補助動作	254 (62.3)	106 (26.0)	48 (11.8)	247 (60.5)	109 (26.7)	52 (12.7)	259 (63.5)	106 (26.0)	43 (10.5)
	妊婦体操・運動	281 (68.9)	77 (18.9)	50 (12.3)	277 (67.9)	78 (19.1)	53 (13.0)	254 (62.3)	115 (28.2)	39 (9.6)

2. 変容評価と精神的健康・QOLの関連

母親学級の各内容に関する変容評価と精神的健康・生活の充実感の関連について、クロス集計と一元配置分散分析により表2の結果を得た。

有意な関連のみられたいずれの項目においても、変容達成群の方が非達成群よりも抑うつ得点あるいは気力の低下訴え率が低く、生活の充実感が高かった。

表2 母親学級の各内容に関する変容評価と抑うつ状態・気力の低下・生活の充実感の関連（単変量解析）¹⁾

	変容評価	抑うつ得点	検定 ²⁾	気力の低下訴え率	検定 ²⁾	生活の充実感 ²⁾	検定 ²⁾
講 義	①妊娠中の生活と衛生						
	・不安の解消	できた 37.4		19.3		88(27.6)	
		できなかった 39.4		20.6		10(20.4)	
	・判断力の獲得	できた 37.4		19.0		90(27.1)	
		できなかった 39.1	**	23.9		7(18.4)	
	・行動の実践	できた 37.6		19.2		83(25.8)	
		できなかった 38.7		24.1	*	10(24.4)	
	②栄養（鉄分など）						
	・不安の解消	できた 37.5		18.9		84(26.6)	
		できなかった 38.6		22.8		13(26.0)	
	・判断力の獲得	できた 37.4		19.2		84(25.1)	
		できなかった 39.7		23.5		13(35.1)	
	・行動の実践	できた 37.4		19.0		85(26.3)	
		できなかった 39.9		23.2		11(11.5)	
③歯の衛生							
・不安の解消	できた 37.1		18.0		72(29.0)		
	できなかった 39.1		23.5		21(18.9)	*	
・判断力の獲得	できた 37.1		19.5		70(27.7)		
	できなかった 39.0		20.6		21(20.4)		
・行動の実践	できた 36.9		18.1		63(29.4)		
	できなかった 38.8		21.6		28(19.0)	*	
④分娩の準備・経過							
・不安の解消	できた 37.4		18.4		90(29.4)		
	できなかった 38.8		25.2	**	7(10.9)	**	
・判断力の獲得	できた 37.4		18.8		83(26.6)		
	できなかった 39.0	*	24.4		10(19.2)		
・行動の実践	できた 37.5		19.4		88(27.3)		
	できなかった 39.3	*	22.5	*	4(10.0)		
⑤産後の衛生							
・不安の解消	できた 37.3		17.5		88(28.2)		
	できなかった 39.6		30.8	***	7(13.7)	*	
・判断力の獲得	できた 37.4		18.4		90(28.5)		
	できなかった 38.9		26.9		5(10.4)	*	
・行動の実践	できた 37.3		18.4		87(27.6)		
	できなかった 39.8		25.6	*	7(14.6)		
⑥沐浴							
・不安の解消	できた 37.3		18.1		82(27.3)		
	できなかった 38.8	**	25.5	**	15(21.7)		
・判断力の獲得	できた 37.4		18.7		85(26.2)		
	できなかった 38.4		24.0		10(23.3)		
・行動の実践	できた 37.5		19.1		88(26.2)		
	できなかった 38.3		21.2		11(26.8)		
⑦育児について							
・不安の解消	できた 36.7		16.9		73(28.6)		
	できなかった 39.7		26.9		22(20.6)		
・判断力の獲得	できた 37.1		18.1		80(28.7)		
	できなかった 39.3		24.8		15(18.1)		
・行動の実践	できた 37.4		18.8		81(25.8)		
	できなかった 38.9		24.8		11(29.9)		
実 習	⑧分娩時の呼吸法・補助動作						
	・不安の解消	できた 37.2		17.8		77(30.1)	
		できなかった 38.7		23.8	*	19(17.6)	*
	・判断力の獲得	できた 37.6		19.7		72(28.7)	
		できなかった 37.7		19.5		24(22.0)	
	・行動の実践	できた 37.4		19.0		74(28.2)	
		できなかった 38.1		19.6		26(24.3)	
	⑨妊婦体操・運動						
	・不安の解消	できた 37.3		18.7		84(29.8)	
		できなかった 39.1		22.4		13(16.3)	
・判断力の獲得	できた 37.3		18.5		83(29.6)		
	できなかった 38.5		22.0		14(17.7)		
・行動の実践	できた 37.2		18.4		81(31.6)		
	できなかった 38.5		20.8		21(17.8)	*	

1) 標本は、表1で母親学級の各内容に関して「はい」「いいえ」のそれぞれに答えた者のみを取りあげた。

2) 「生活の充実感」についての数字は「充実している」と答えた回答者数と%を表す。

3) 検定は「抑うつ得点」と「気力の低下訴え率」についてはF検定、「生活の充実感」については「充実している」「まあ充実している」「あまり充実していない・充実していない」の3カテゴリによる χ^2 検定を行った。

*:P<.05 ** :P<.01 ***:P<.001

しかし、変容評価は属性によって左右されることが考えられる。属性との関連を検討したところ、母親学級9項目のいずれかの変容評価と5%以下水準で有意な関連が検出されたものは「子供の人数」「年齢」「実家までの所要時間」であった。また、学級の項目は同じであっても、各保健所や病院によってその教育方法などは異

なり、受講者が受けた教育の質的条件は均一ではない。そこで、変容評価に影響を及ぼす要因と思われる「年齢」「子供の人数」「地域」「受講時期」「受講場所」「実家までの所要時間」をコントロールした上で、変容評価そのものと精神的健康・生活の充実感の関連性について、検討した。結果を表3に示す。

表3 母親学級の各内容に関する変容評価と抑うつ状態・気力の低下・生活の充実感の関連
(年齢、地域、子供の人数、受講時期、受講場所、実家までの所要時間をコントロールした共分散分析結果)

評価項目	F値						
	抑うつ状態 検定		気力の低下 検定		生活の充実感 検定		
講 義	①妊娠中の生活と衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	6.78	*	1.39		5.03	*
		2.24		3.08		2.27	
		0.92		0.57		0.58	
	②栄養(鉄分など) ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.41		1.00		0.97	
		2.74		1.32		1.39	
		3.90	*	0.56		0.43	
	③歯の衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	7.73	**	8.53	**	12.10	**
		4.71	*	0.36		2.40	
		4.11	*	3.04		10.02	**
	④分娩の準備・経過 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	3.00		4.43	*	10.59	**
		2.35		2.78		1.54	
		1.23		0.03		5.17	*
	⑤産後の衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	5.75	*	14.39	***	8.83	**
		3.00		7.49	**	4.28	*
		3.02		1.73		2.06	
	⑥沐浴 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	2.68		7.52	**	1.04	
		0.41		1.49		0.23	
		0.05		0.13		0.01	
	⑦育児について ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	18.02	***	17.16	***	5.41	*
		5.56	*	4.63	*	2.40	
		0.99		1.92		1.07	
実 習	⑧分娩時の呼吸法・補助動作 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	4.72	*	5.17	*	1.35	
		0.48		0.19		1.54	
		0.97		0.01		0.74	
⑨妊婦体操・運動 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	4.98	*	2.45		4.17	*	
	2.44		1.89		1.13		
	1.56		0.27		3.94	*	

抑うつ状態は抑うつ得点、気力の低下は気力の低下訴え率、生活の充実感は「充実している」を1、「充実していない」を0と数値化した変数を、投入した。

検定はF検定を行った。

*:P<.05 ** :P<.01 ***:P<.001

第1点として、「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の評価の3点のうち、どの側面が抑うつ状態・気力の低下・生活の充実感とより多く関連しているかをみると、「不安の解消」が最も多く有意に関連していた。

第2点として、学級内容別には、どのような内容における変容達成が、精神的健康やQOLに関連するかをみた。「歯の衛生」「産後の衛生」「育児について」「分娩の準備・経過」の講義や「妊婦体操・運動」の実習の項目における変容達成の状況が、精神的健康や生活の充実感に比較的多く関連していた。すなわち、出産や歯の衛生、育児に関わる項目において変容達成ができたかどうか、精神的健康や生活の充実感に多く関連していた。

IV. 考察

本研究では、①母親学級の受講者が学習内容に関して意識・態度・行動の変容を達成することが、精神的健康やQOLとどのように関わっているのか、という観点から母親学級による変容達成を評価した。さらに、母親の精神的健康やQOLとの関連上、②どのような評価視点が重要であるか、③どのような学習内容がポイントであるか、といった点について検討した。

①乳児健診に訪れた母親のうち母親学級を受講した者を対象として、母親学級の内容9項目に関して、それぞれ「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の3点から変容達成を評価させた。その変容達成の良否と抑うつ状態、気力の低下、生活の充実感との関連を検討したところ、年齢、子供の人数、地域、受講時期、

受講場所、実家までの所要時間といった影響要因をコントロールした上でも、多くの項目において有意な関連が認められた。変容達成群では非達成群よりも、抑うつ状態や気力の低下の状態は低く生活の充実感が高いことから、母親学級による変容達成は出産後の母親の精神的健康やQOLの良好性に関連することが示唆された。

②今回、評価視点として設定した3点の中では、様々な学習内容に関する「不安の解消」が最も多く精神的健康やQOLの状況と関わっていた。よって、「不安の解消」ができたかどうか、評価のポイントと思われる。同時に、受講者が不安を解消できるような学級運営をはかることが、母親の精神的健康やQOLとの関連においては最も重要といえる。

③母親学級のすべての学習内容が、いずれも同じように受講者の精神的健康やQOLと関連しているわけではなく、分娩や出産前後のこと、歯の衛生、育児に関する講義ならびに実習項目が、特に関連が強かった。すなわち、こうした学習内容に関する変容達成ができた者は、そうでない者より明らかに精神的健康やQOLが良好であった。よって、受講者の精神的健康やQOLとの関連においては、このような領域に関するマスターがとりわけ重要と思われるが、これらの項目は同時に、他の項目よりも変容達成率がやや低い項目に該当している。したがって、母親学級の運営にあたっては、分娩や出産前後のこと、歯の衛生、育児に関する講義ならびに実習といった領域をより重視して、受講者が十分変容達成できるような講義や実習のあり方を検討することが必要である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:1. 母親学級の受講者が意識・態度・行動の変容を達成することが、精神的健康や QOL とどう関わっているか、という観点から母親学級を評価した。各学習内容に関して「不安の解消」「判断力の獲得」「行動の実践」の3点の変容達成を評価させたところ、変容達成群では非達成群よりも明らかに抑うつ状態や気力の低下の状態が低く生活の充実感が高く、母親学級による変容達成は母親の精神的健康や QOL と関連することが示された。

2.3 つの評価視点のうち、「不安の解消」が母親の精神的健康や QOL と最も多く関連していたことから、不安の解消ができたかどうかという側面を評価することがポイントと思われる。

3. 母親学級の学習項目がいずれも同程度に受講者の精神的健康や QOL と関連しているのではなく、分娩や出産前後のこと、歯の衛生、育児に関する講義項目ならびに実習項目が特に関連が強かったことから、こうした領域での変容達成が重要と思われる。